

岡山畜産便り

2024 2



真庭市蒜山 丸山牧場ご家族(酪農)

も く じ

〔特集〕

- 親から子へつなぐジャージー酪農
(一社)岡山県畜産協会 経営支援部 1

〔肉用牛施策〕

- 岡山県の肉用牛振興施策について
岡山県農林水産部畜産課 6

〔県民局だより〕

- 高病原性鳥インフルエンザの発生に備えた
総合計画を策定中です！
備中県民局畜産第一班 8

〔技術のページ〕

- 最近の研究成果について
農林水産総合センター畜産研究所 10

〔家保のページ〕

- 津山家畜保健衛生所の業務概要
～真庭・津山家保の統合から1年半経って～
津山家畜保健衛生所 12

〔お知らせ〕

- 家畜衛生管理センターの
死亡牛受付状況と業務の終了
(一社)岡山県畜産協会 家畜衛生部 14
令和6年4月から
死亡牛BSE検査対象が変更になります！
岡山県農林水産部畜産課 15

〔センムのヒトリゴト〕

- 刻まれた傷跡、白い友の仲間たちへ
(一社)岡山県畜産協会 中塚 陽二郎 17

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co., Ltd. 株式会社ジュウチク

岡山市北区今保 99 番地 3

Tel.086-259-1230 Fax.086-259-1231

Email : jyuchiku@festa.ocn.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

〔特集〕

親から子へつなぐジャージー酪農

(一社)岡山県畜産協会 経営支援部

令和5年度全国優良畜産経営管理技術発表会で農林水産大臣賞を受賞された丸山昭博・都々子夫妻と息子の心(じん)さんに、家族酪農の営みや将来の展望についてお話を伺いました。

丸山牧場は、経産牛78頭、育成牛を含めると100頭ほどのジャージー牛を飼育しています。また、酪農家による飼料共同生産組織「Hiruzen Maize planting harvest association」(以下「蒜山メイズ」)の一員として自給飼料生産も行われています。

〈丸山昭博さん〉



就農までの経緯

(協会、以下(協)) 進学先が農業系ではない学校ですが、将来、酪農をするとき役立つから、という思いもありましたか？ご両親の反応は？

(昭博さん、以下(昭)) 将来酪農をすることは考えず、得意分野である工業系高校に進学しました。大学も県外の理工系に進学しましたが、そのことについて、両親からの反対はなく、就農してほしいという思いはあったとは思いますが、口に出して言われたことはありませんでした。

(協) 大学卒業後も関東の企業に就職され

ていますが。

(昭) 就職後、父がぎっくり腰になったと聞いて蒜山に帰ってきましたが、実際はびんびんしていました(笑)。両親も、就農はとにかく実家の近くに帰ってきてくれれば、という思いになっていたのだと思います。そうはいつでも父だけで酪農をするのは大変そうで、丁度、地元の工務店からの引き合いもあったので、その工務店で働きながら酪農を手伝うことにしました。

(協) 酪農にどのようなイメージを持たれていましたか？休みがない等マイナスイメージはありませんでしたか？

(昭) 子供のころからジャージー牛が家にいて、牛は小さくてかわいいものというイメージでした。それもあり、就農が嫌だったわけではありませんが、両親のように外で働きながら酪農を続けていくのはしんどいと思い、規模拡大の話が出たことで、専業農家として就農する決断をしました。

蒜山に帰ってきて

(協) 蒜山は助け合いやお互い様といった精神が強いと感じるのですが、そういった精神はどこから醸成されたと思いますか？丸山さんも「ワンチーム」を大切にされていますか？

(昭) 他所の人からは、「蒜山は良い所」、「年に何度も来ている」といった話を聞きますが、正直に言うと、これが普通なので何がいいのだろう？思ってしまう。東京や都会と違って、何もありませんが、何もないのいいのかもしれない。私は、アウトドアで四季折々のことを楽しむことが好きなので、そういった面では蒜山だからこそ仕事と趣味両方が充実しているといえま

す。

また、「蒜山の人達は人がいい」ともよく言われますが、お互いをよく知っているからこそ、助け合いやお互い様といった気持ちが生まれるのかもしれない。

酪農が生き残っていくためには

(協) 蒜山メイズの今後の展望を教えてください。また、ひるらくの理事として、ジャージー酪農の展望を教えてください。

(昭) 日々の仕事の中で、作業的につらいと思うことは全くありませんが、蒜山は天候不順で作業体系がうまくいかないのが難しいところです。また、酪農は世界情勢に振り回されるので、いかに対応していくかが重要だと感じています。

蒜山メイズとしてトウモロコシを作付けしていますが、構成員個々の農家が安定して飼料を給与できるように、既存機械の能力の範囲内で規模拡大できたらと思います。後々は、若手に引き継ぐので、今年から徐々に若手に引き継いでいくつもりです。

全国的に畜産農家が減少する中で、将来的にはジャージー農家の減少も免れないでしょう。残された人材がいかに、どの程度引き継いでいくかということが大事になっていきます。

また、国内の人口自体も減っていくので、人口減に併せて、国内の生産量を減らすより、国外へ輸出する国になってほしいと思います。

畜産DXについて

(協) 農業分野にも次々と先進機械が導入されていますが、その事についてどう思われますか？

(昭) 私自身は、過剰投資になると困るので、足元を見ながら着実に投資をするようにしています。過去に失敗したこともあるので、本当に必要なものだけを導入するようにしています。

一つのモノをつくるのに、大量生産もいいですが、日本のモノづくりの精神を大事にしたいと思っているので、自分の目が配れる範囲内で酪農経営をしていくつもりです。やはり、人間が機械に使われては駄目なので、自分が機械を活用できるということを大事にしたいです。



草を食べるジャージー牛

経営継承について

(協) 昭博さんご自身は様々な経緯で就農されましたが、息子さんには経営継承についてどのような考えをお持ちですか？

(昭) 息子には強がり、好きにやれ、と言っていますが、帰ってきてくれてやはり嬉しいです。

ただ、一人分の専従者給与が必要になるわけですから、その分の収益確保に力を入れなくてはなりません。搾乳頭数を増やし、機械の更新も適宜行いながら、守りから攻めの経営へ転換しています。

現在、父が繁殖和牛を飼っていますが、今の牛舎で管理するのは難しいと思っているので、繁殖和牛をやめるか、和牛用の新しい牛舎を建てて息子に継いでもらうことも考えています。そうすると新規投資が必要となるので、親心としては早めに投資しておいてあげた方がいいだろうなと思うところです。

経営継承について、正確にいつ頃とは決めていませんが、概ね10年以内に、息子がいいようにしてくれたらいいと考えています。私と全く同じことをしてはつまら

ないですし、息子の思い描く酪農をしてほしいと思っています。継承をした後は、手伝いくらいはしますが、当てにされても困るので（笑）。

普段からそうした話をする訳ではありませんが、それぞれ同じように考えているのは感じています。

若手へのメッセージ

（協）最後に、若い人たちへのメッセージをお願いします。

（昭）目標をもってあきらめずに酪農を続けてほしい。地道にコツコツとやっていればいいことがあるはずなので、頑張ってください。

〈丸山都々子さん〉



就農までの経緯

（協）就農される前は、何をされていましたか？

（都々子さん、以下（都））非農家ではありますが、実家は旧川上村の酪農地帯にあり、牛が身近にいる環境で育ちました。蒜山でバイトをしていた時、大学生だった夫が帰省してきており、そこで出会いました。夫は私のいつも明るいところに惹かれたんだと思います（笑）。学生結婚のような形で、大学のある福島県の郡山で一緒に暮らし、就職を機に関東に移りました。夫と蒜山に戻って来た当初は、ジャージーランドの売店で働いており、義母と入れ替わる形で牧場の仕事に携わ

るようになりました。

酪農の仕事について

（協）今の作業内容を教えてください。

（都）今は搾乳と哺乳を担当しています。特に哺乳は、子牛が下痢をしないように気を遣っています。温度管理や敷料の調整、衛生面に気を付けています。

私も新規投資は慎重に行いたいので、機械化をすすめるより自分の目と手でやっていきたい、という話をしています。

他には、ガーデニングが好きなので、趣味と合わせて牧場の環境美化にも努めています。

女性部の活動

（協）農家さん同士で参加しやすい集まりを作るにはどういったことが大切だと思いますか？

（都）私自身は人見知りはないので、女性部の集まりにもよく参加しています。酪農という共通の話題があるので、世代が違ってても話が尽きません。先日も酪農家と酪農ヘルパーの女性が集まりましたが、話し疲れるほどでした。



女性部のみなさん

女性部の中でもいろんな人がいて、興味があることも違うので、みんなが集まる研修会、というのは難しいと思いますが、楽しく情報交換できるような場を関係機関のみなさんと作っていただきたいと思います。

〈丸山心さん〉



就農までの経緯

(協) 現在、実家に就農されていますが、酪農をしたい、という気持ちはいつからありましたか？

(心さん、以下(心)) 両親を見ていて、カッコいい、誇り、あこがれという気持ちがあり、子供の頃から将来は就農したいという想いがありました。両親からは、酪農を継がなくても好きなようにしていいと言われていましたが、実家を継ぎたいという気持ちが強かったので、工業高校を卒業してすぐ就農しました。酪農に関する知識や技術は両親に教えてもらいながら、コツコツと身に付けていきました。

就農してみて

(協) お父さんと同じように農業系の学校に進学せず、就農されたということですが、就農後、知識や技術の習得にどう取組まれましたか？

(心) 牧場の仕事は一通り任せてもらったので、今では、経理以外のすべての仕事をこなせるようになりました。

初めての機械の取り扱いには苦労することありますが、蒜山メイズでももっと幅広く作業を担えるよう頑張っています。牧草の収穫が終わった時は、頑張ってよかったと感じます。

また、搾乳が好きで、時間をかけてもいいので丁寧に行うことを意識して、乳質の維持に努めています。乳質がよかったとき

には、やりがいを感じます。こういった技術は特別教えてもらうわけではなく、両親の搾乳手技をまねて習得しています。

両親について

(協) 心さんから見て、お父さんとお母さんはどのような人ですか？

(心) 父は仕事にまじめ、遊びにもまじめ、何事にも全力投球の人です。

母は大雑把なところもありますが、それがおおらかさでもあるので、いつもうちが明るいのは母の存在が大きいと思います。コミュニケーション能力が高く、ムードメーカーです。

同業者とのつながり

(協) 就農後に畜産農家とのつながりはどのように作っていききましたか？

(心) 同世代が少ないので、その人たちとの関わりを大事にしています。関係機関でのイベントや、おか酪の山本(所長)さんからの呼びかけがきっかけになったつながりもできたので、ありがたいです。畜産農家と情報交換するのは楽しいですし、モチベーションも上がります。

今回の経営発表会での受賞は、他の農場の経営をみる機会がなく、自分には当たり前のことだったので、このような名誉な賞をいただけて驚きました。今後は他の牧場の視察研修に参加してもっと学びたいと思っています。自分の農場と同じ機械を導入している、あるいは、同じ飼養形態の農場を見てみたいです。

仕事と趣味の両立

(協) 余暇はどのようなことをして過ごされていますか？

(心) 子供のころから、父と一緒に釣りやスノーボーをしていました。就農してからは、牧場や草の仕事があるので、一緒にというわけにはいきませんが、冬は私がスキーやスノーボー、春は父が釣り、と調整していま

す。

動画を撮ったり編集したりするのも好きで、作業風景などを撮影して蒜山メイズのPVなどを作っています。動画を通して蒜山のことや自給飼料の取組を知ってもらえると嬉しいです。



颯爽とスノボーをする心さん

経営継承について

(協) 経営継承された場合、どのような酪農のスタイルを目指していこうと思われませんか？

(心) 今の酪農のスタイルを大きく変えることは考えていません。機械に頼りすぎず、自給飼料中心の経営を続けたいと思っています。

今は、和牛の飼養管理について詳しくないので、和牛繁殖についても学んでみたい

です。将来は牛舎を新設して和牛を増頭したいので、早めに両親が投資をしてもらえばありがたいです（笑）。

おか酪蒜山事務所 山本所長から

誰に見ていただいても恥ずかしくない、牛舎がきれいで飼養管理もきちんとされている農場です。都々子さんはコキアや花を植えたり環境美化に取り組まれています。私も都々子さんにコキアをいただいて家に植えています。都々子さんはまめに手入れをされ、牧場をきれいで明るい雰囲気に保たれていると感じます。

ジャージー酪農のイメージアップにもとてもよく、取材や研修があればいつも丸山さんに頼っています。



オールインワンが自信を持ってお届けします



日本初!



**BOVINE
CRYPTO-EP**
100ml × 10本入り



牛用飼育用混合飼料
ボバインクリプト-EP

ついに登場!

乾乳から分娩へ
**移行期
サプリメント**



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式会社

オールインワン

ご用命は

中国支店：〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL(086)427-6300 FAX(086)427-6011
E-mail : y-suwa@all-in-one.co.jp

〔肉用牛施策〕

岡山県の肉用牛振興施策について

岡山県農林水産部畜産課

1 はじめに

本県の肉用牛飼養農家戸数は、令和5年2月現在で378戸、10年前の約65%となっており、特に20頭未満の小規模経営を中心に年々減少傾向にあります。一方で、飼養頭数については、国の生産基盤拡大加速化事業等の増頭対策（R2～R5）もあり、令和4年までに繁殖雌牛頭数は増加傾向となっております。

表1：県内の飼養戸数と頭数

年	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭)	繁殖雌牛 (頭)
H 25	585	34,600	5,050
R 3	395	34,200	5,380
R 4	406	34,900	5,600
R 5	378	35,100	5,470

(農林水産省統計)

また、新型コロナウイルス感染症流行による影響をはじめとした畜産物消費の落ち込みや、ウクライナ情勢による飼料価格の高騰・高止まりが続くなか、資材費や燃料費等の物価高騰の影響もあり、肉用牛経営は非常に厳しい状況に直面しております。そして、このままでは経営維持が危ぶまれ、生産基盤の弱体化が危惧される状況です。

県内の和子牛価格については、令和5年4月から低迷し、多少上下はあるものの、前年比81%と低い価格で推移しており、今後も見通しがたかない状況が続きます。このような中、国では、従前の肉用子牛生産者補給金制度に加え、令和5年1月から和子牛生産者臨時経営支援事業が実施され、令和6年3月末までの延長とブロック別平均価格の算定方法が見直されました。県では、緊急対策として、令和5年11月補正予算において、和子牛価格低迷に対する経営支援を行うことが決定しました。また、中長期的な対策としては、関係機関との連携を強化し、飼養管理技術の改善・向上や生産基盤強化対策等により、子牛の資質向上や生産性の向上を推進しております。

2 岡山県和子牛生産者臨時経営支援事業

生産コストの上昇、子牛価格の低迷を受け、和子牛生産者に対する経営支援を行います。

内 容：県平均価格（四半期毎）が発動基準価格60万円を下回った場合に、販売した和子牛頭数に応じて補助金を交付。

対 象：肉用子牛生産者補給金制度の契約締結済の生産者が販売した子牛

対象期間：令和5年4月～12月

交付単価：四半期毎に、県平均価格を算定し、発動基準価格との差額を交付。

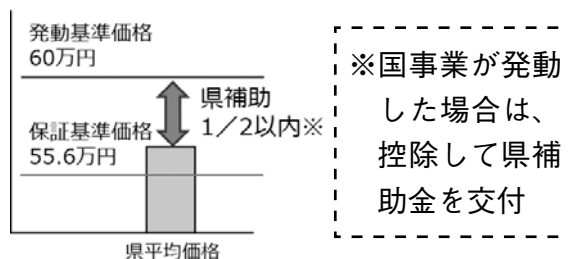


図1：発動イメージ

3 主な肉用牛振興事業

(1) 和牛改良の推進

①肉用牛広域後代検定推進事業

受精卵移植技術を活用し、優良牛群の維持確保を図るとともに、後代検定により精度の高い育種改良を図ります。

主要内容：農家の優秀繁殖雌牛からの採卵等

②伝統の「岡山和牛」再発見事業

「高能力繁殖牛保留対策」（令和4～6年度）岡山の血統を受け継ぐ優秀な遺伝子を持った繁殖雌牛の増頭を促進します。

内 容：県有種雄牛産子（平成22年以降出生）を繁殖雌牛保留した場合に1頭あたり5万円以内を補助します。

要 件：事業実施年度4月1日時点で9ヶ月令以上かつ登録検査前、育種価要件等

(2) 肉用牛生産基盤の整備

①肉用牛生産条件特別整備事業

内 容：肉用牛農家が経営規模拡大を行うために必要な施設機械等又は遊休農地を活用し放牧により省力的に繁殖牛を管理するための施設等の整備を支援します。

補助率：事業費の1/3以内（経営規模拡大型）

さらに、新規就農者支援では、肉用牛繁殖経営を新たに開始しようとする者に対し、繁殖雌牛の導入や経営開始に必要な施設、機械等の整備を支援します。

（参考）直近実績

牛舎整備（新設・増改築）、牧柵整備等



写真1：令和4年度事業整備（牛舎内増改築）

(3) 和牛担い手育成対策

（一社）岡山県畜産協会主催の「和牛入門講座」や「和牛未来塾」等を通じ、新規参入者や後継者等、新たに和牛経営を始める方を支援します。

4 支援体制

和牛子牛の資質向上を図るため、平成20年から、「岡山県和牛子牛資質向上対策協議会（構成団体：全農岡山県本部や農協、（一社）岡山県畜産協会、岡山県等）」において、肥育農家が求める発育良好な子牛の生産・増頭に向けた取組を行っています。主に四ツ☆子牛の認定業務や生産性の高い経営体を目指して各地域部会での巡回指導等を実施し、子牛の哺育育成技術の向上のほか、適正な繁殖管理により、分娩間隔の短縮や元気な子牛づくりを推進しています。各地域部会の農家巡回指導では、県民局や家畜保健衛生所、農協等が中心となり、子牛の体測を行い、その結果をもとに、各農家の管理状況に応じた、飼料給与や環境管

理等の飼養管理技術の改善指導を行っています。子牛価格低迷により厳しい時期だからこそ、飼養管理の改善等により、四ツ☆子牛の生産に取り組んでいきましょう。



写真2：地域巡回風景

5 第13回全国和牛能力共進会北海道大会

大会本部から、大会の開催期間や場所等が公表されました。

●主催

公益社団法人 全国和牛登録協会

●開催期間

令和9年8月26日（木）～8月30日（月）

●開催場所 北海道十勝地方

種牛の部 音更町 肉牛の部 帯広市

●大会テーマ

「魅力発信 新しい力でつなぐ

和牛の未来」

テーマには、生産コストが高まる中、飼料利用性や繁殖能力の改良を進め、新しい力で和牛を次世代につなぐという内容です。県出品対策のスローガンも策定予定です。また、会期は例年に比べ早く、岡山から会場までの移動や会期中等の暑熱対策も検討する必要があります。

さて、開催まであと4年を切りました。来年度は、候補牛作出に向け、指定交配や受精卵移植が始まります。畜産情勢が非常に厳しいなかですが、県下全体で出品対策に取り組んでいきたいと思いますので、皆様には、候補牛作出に向けご協力のほど、よろしくお願いいたします。



写真3：鹿児島全共の写真

〔県民局だより〕

高病原性鳥インフルエンザの発生に備えた 総合計画を策定中です！

備中県民局畜産第一班

はじめに

昨年全国で大々的に鳥インフルエンザが発生したことは記憶に新しいと思います。岡山県でも4件発生し、そのうち備中県民局管内でも3件がわずか3週間の間に続けて発生するという異例の事態が起きました。今回の対応は実は最初から大きな問題を抱えてのスタートでした。1件目の作業開始前、必要資材の搬入を急ぐあまり、資材を積んだトラックが一気に押し寄せ、農場への進入路を占拠しました。この道はトラック1台がやっと通れる幅しかなく、荷物を降ろしたトラックと搬入するトラックが鉢合わせし、大渋滞が起こってしまいました。このため急遽現地スタッフが交通誘導を行うことになりましたが、解消に2時間以上かかり初動対応に大きな課題が残ってしまいました。

3件対応する中では、この他にも様々な課題が見つかりました。現在、農場ごとに発生に備えた防疫計画が作成されていますが、同じような問題を抱えている農場が他にもあるのではないかと、そうであれば防疫計画の見直しが必要ではないかと、見直しにあたっては畜産関係職員だけでなく、各分野でより専門的な知識を有した職員に変わってもらうべきではないかとの話になり、県民局長の指示によりR5年2月に「備中県民局鳥インフルエンザ発生対応総合計画策定会議」が局内に立ち上げられ、部局横断的な計画の見直しが始まることとなりました。

1. 策定会議の概要

現場が混乱しないよう速やかに対応する

ため、防疫計画の精度を上げるだけでなく、人の確保や物資の調達、輸送手段、さらに集合場所の確保など、農場ごとの環境条件を踏まえた具体的で総合的に防疫計画の見直しを行うことが会議の目的です。

会議の中では3つの組織を設けています。

・全体会議

県民局次長をトップに関係部所長が構成員となり、計画の策定を円滑に進めるため全体方針の決定と部所間の協力体制を図る場です。

・地域会議

管内4地域ごとに設置され、全体会議の方針を受けて地域内農場の具体的な見直し計画を立てます。

・検討班

地域会議内に設けられた実行班です。細部の検討にあたり、関係部所の実務担当者が集まり助言や資料提供等を行います。必要に応じて打合せ会議や現地調査を実施します。

各組織構成員は家畜保健衛生所を始め、備中県民局内の農林水産事業部、総務部、建設部、健康福祉部など各地域各所のあらゆる部署まで広げ、県民局全体での取り組みとしています。そのため、会議の立ち上げにあたっては設置要領を定め、その存在を明確にしています。

2. 各地域の現地確認

このような経緯で会議はスタートし、倉敷・井笠・高梁・新見の4地域毎に農場を選び、農場内部や進入路など周辺環境を確認しました。また、どの農場も農場まで

の進入路が狭いという理由で選定されました。

共通の確認事項は、動員者の輸送ルート、輸送バスの待機場所、動員者の駐車場、テント設営場所、埋却予定場所、農場内作業動線とし、農場毎の問題点を合わせて確認しました。現地確認時にはバス会社の協力も得て、大車両通行の判断をしてもらいました。



各部所が集まり現地確認

- 動員者の駐車場が少ない→候補地を探す
- テント設営場所に草が生えるなど、設営できない→草刈り及び重機等で地ならし
- テント設営場所が狭い→小さいテントに変更
- 埋却地まで大型車が進入できない→埋却以外の方法で対応
- 農場内の作業スペースが狭い→農場に物資の片づけ、移動を依頼



進入経路確認の様子

現地調査により見つかった主な問題点と対応策は次のとおりです。

- 農場までの進入路が狭い→農場近くで小型バスに乗り換える、誘導員を配置する
- 農場までの道に障害木がある→地権者（所有者）を確認し、伐採許可を取る



バス進入経路確認の様子

- バスの待機場所にぬかるみがある→鉄板を敷設
- バスの待機場所に障害物がある→農場へ撤去を依頼

3. まとめ

今回の現地調査を受けて、県民局では検討事項を一つ一つ見直して、防疫計画に反映させていきます。

鳥インフルエンザは今年度も野鳥で陽性が確認されるなど、予断を許さない状況が続いています。発生時に円滑な対応が進められるよう、策定会議の取組みを進めていきます。



ドローンにより、農場全体を把握

最近の研究成果について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 企画開発グループ

現在、畜産研究所では、「ブランド力の強化」、「環境との調和と気候変動への対応」「生産性の向上」の3つを重点課題に定め試験研究に取り組んでいますが、今回は、最近の畜産研究所の研究事業の成果について簡単に紹介させていただきます。

1 乳用牛関係

近年の酪農経営は生産コスト削減のため大規模化や食品副産物の活用が拡大し、省力化を目的とした搾乳ロボットの導入が進んでいますが、一方でこのような飼養管理の変化が要因と考えられる乳の風味変化が県内でも報告され問題になっています。当研究所では、県内で早期に搾乳ロボット（写真1）を導入していることもあり、所内において飼料や飼養条件が乳の風味変化に与える影響を調査しました。

風味変化の発生予防対策として、過度な多回搾乳の防止や体脂肪動員対策となる糖質給与に効果があることが分かりました。

○参考：研究報告

- 乳の風味に及ぼす飼養管理の影響の検討（第13号、R 6年）



（写真1 搾乳ロボット）

また、乳用牛の自給飼料の確保についてはイアコーンサイレージの現地実証を行い、耕種圃場の土壌物理性の改善を確認でき、給与実証では乳量や乳成分に影響はなく、新たな耕畜連携の取り組みの有効性を示しました。

○参考：研究報告

- イアコーンサイレージ用の極早生トウモロコシの適正検討（第11号R 4年）

2 肉用牛関係

これまで育種価を活用した改良への取組の結果、次の図のように県内黒毛和牛の肉質と肉量は飛躍的に改良することができました。近年では和牛産肉能力の新たな改良手法として、遺伝子解析により早期に能力を評価するゲノミック評価に取り組んでいます。従来の育種価と高い相関も認められ、既にゲノミック評価も活用した基幹種雄牛「藤初花」号、「糸勝百合」号等を作成するなど早期選抜・利用に成果が出ています。

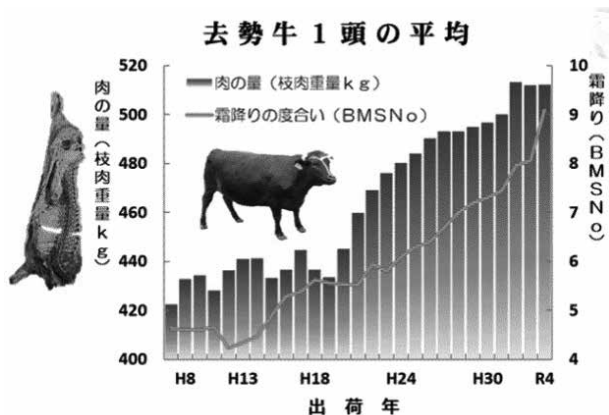
また和牛肉の最大の特徴といえば霜降り（脂肪交雑）ですが、脂肪の質（脂肪酸）や脂肪交雑の形状（細かさ）といった霜降りの質についての研究を進めています。格付評価には現れないおいしさの評価も行い、脂肪交雑形状の遺伝率は、従来の産肉能力形質と同程度で高く、遺伝的な改良が可能であることが分かりました。

○参考：研究報告

- 肉用牛の改良促進調査研究（第8号H 9～第13号R 6年）

- 岡山和牛における脂肪交雑形状の育種価評価（第13号R 6年）

岡山県産和牛の肉質と肉量の推移



和牛繁殖雌牛の飼養管理では、発育良好で体積豊かな後継雌牛にするための育成技術の検討を行いました。月齢に応じた適正な飼料給与水準を解明するために、血液成分の検査結果を用いる手法を取り入れ、生後9ヶ月齢以降の発育期から初産分娩を迎える24ヶ月齢までの飼養管理を含む和牛繁殖牛飼育マニュアルを関係機関と共同で、新たに作成し、生産者等へ配布し、より良い育成牛、繁殖牛の飼養管理技術の向上を図っています。

○参考：研究報告

- 体積豊かな後継雌牛育成技術の確立（第12号R 5年）

3 環境関係

令和3年の「肥料の品質の確保等に関する法律」等の改正により、堆肥中のN, P, K以外の微量元素等を品質表示に表示することが可能となったため、県内産堆肥を分析調査しました。調査結果では3要素以外では、く溶性石灰のみが表示可能な含量でした。微量元素について堆肥の新たな効果として、販売時のPRにも活用できる可能性がでてきました。また施肥設計に反映させることにより、過剰施肥防止に役立つこと

も期待されます。結果は、令和4年の関西畜産学会でも紹介されました。

さらに、肥料活用便覧としてまとめられた「最新農業技術 土壌施肥」に、「混合堆肥複合肥料の製造技術」の内容が掲載されました。当時開発したキャベツ用混合堆肥複合肥料については、市販化され、流通しています。

○参考：研究報告

- 県内産堆肥に含まれる微量元素等の調査（第13号R 6年）

農研機構畜産環境研究部門との共同研究では、浄化処理施設から排出される温室効果ガス一酸化二窒素の削減を目的とし、炭素繊維を担体として活用した炭素繊維リアクターを污水处理施設の曝気槽内に設置したところ、温室効果ガスの排出を80%削減できることを確認しました。

本技術は、既存施設に導入可能で、従来の活性汚泥処理法と同等の有機物処理能力があり、窒素除去効果の向上も期待されます。「家畜污水处理施設設計・維持管理マニュアル」に污水处理新技術事例として、また農林水産省「みどりの食料システム戦略」の具体的な事例としても掲載されています。

○参考：研究報告

- 家畜排せつ物の処理過程における温室効果ガス排出削減技術の開発（第8号H30年）

今回の成果を含む研究成果につきまして、農林水産総合センター畜産研究所のホームページに紹介されておりますので、畜産経営の参考にしてください。

畜産研究所研究のホームページアドレス

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/204/>

〔家保のページ〕

津山家畜保健衛生所の業務概要 ～真庭・津山家保の統合から1年半経って～

津山家畜保健衛生所

1 津山家畜保健衛生所の概要

当所は県北東部の津山市にあり、令和4年4月に真庭地域を管轄していた真庭家畜保健衛生所を統合し、県北の中央から東部までの広域を管轄しています。

職員は、所長、参与以下、津山地域を所管する家畜衛生第1課13名、真庭地域を所管する同第2課9名の総勢24名で県下4家保の中で最大の職員数となりました。

管内の家畜飼養状況は、乳用牛約6,300頭、肉用牛約12,800頭で共に県内の約4割、豚は約13,300頭で約3割、採卵鶏は約545万羽で約5割、肉用鶏は約54万羽で約2割となっています。（令和5年2月1日岡山県調べ）

2 家畜伝染病予防法に基づく防疫推進

令和4年度には、高病原性鳥インフルエンザが、全国初の発生を含め本県で4事例発生しました。うち1事例は当所管内のあひる農場での発生でした。



また、豚熱では、本県を取り囲む各県で野生イノシシでの感染が確認されており、

管内への豚熱ウイルスの侵入が危惧されています。

このような中、真庭地域へは業務効率化のため高速道路を利用しており、日々の高額なETC利用料金から広域化を実感しつつ、次のような業務を行っています。

（1）発生予防対策

飼養衛生管理基準遵守向上のため、農場マニュアルの見直し指導、農場による毎月の自己点検等を強化しています。

また、岡山県では令和3年4月から豚熱ワクチン接種が始まり、2年が経過しています。現在は登録飼養衛生管理者によるワクチン接種制度を活用し、管内農場の約8割が自農場で接種を行っています。家保では、母豚の更新による抗体価のばらつきがあることから、子豚の免疫獲得状況を把握し、適期でのワクチン接種を指導しています。



（2）まん延防止対策

県内での高病原性鳥インフルエンザ発生への対応を検証し、迅速かつ適切な防疫措置達成のため、関係機関と共に養鶏場への

進入路や埋却地の現地調査を行い、農場毎の防疫計画の精度を向上させています。また、庁内及び市町村等で防疫演習・事前協議等を開催し、全庁的な連携及び市町村等との協力体制を強化しています。



豚熱防疫演習

3 家畜衛生の推進による畜産物の安全・安心対策

(1) 地域のブランディングを支える取組

農協等と連携し、地域でブランド化している「なぎビーフ」、「つやま和牛」の肉質向上と疾病低減の取組を支援することで生産基盤の安定を図っています。



肉用牛指導

また、ジャージー雌牛の飼養頭数が全国一の蒜山地域において、ジャージー牛の特色を生かしたブランド力強化と育成牧場での疾病低減対策を支援しています。

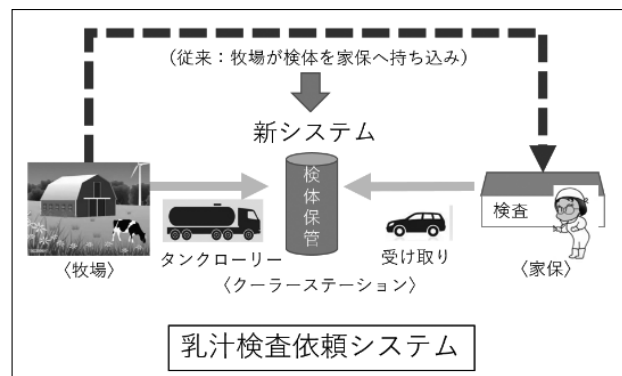
(2) 農場HACCP認証取得指導

管内では、肉用牛2戸、乳用牛1戸の農場がHACCP認証を取得しており、現在1戸の農場が取得を目指しています。飼料

や資材が高騰している中で農場経営の点検、見直しが迫られており、有用な手法の一つとして取組を広げるよう指導を行っています。

(3) 利用しやすい乳汁検査依頼システムの構築

管轄地域の広域化に伴い、家保への乳汁搬入に生乳集荷車を活用することで誰もが利用しやすい乳汁検査依頼システムを構築し、管内酪農家に広く活用されています。



(4) 自給飼料の生産と利用の指導

飼料高騰の中、自給飼料の増産と利用向上のため、関係機関と連携して、地域のニーズや気候等に合った品種選定や肥培管理の指導を行っています。

(5) 牛受精卵移植技術の普及

令和4年度に当家保が実施した採卵は144件、移植は464件で、県が実施した採卵の84%、移植の74%となっており、県内の受精卵移植事業の中核を担っています。管轄地域が広域化したことで、採卵後に家保に戻って検卵するには時間がかかるため、移動検卵車を導入し現地で検卵するなど、業務の効率化も図っています。また、民間を含めた有資格者のフォローアップや新規資格取得者の獲得に向け技術研修会を開催しています。

最後に、飼料及び光熱費等の値上がりを受け、生産費の高騰にあえぐ畜産農家の方々に、家畜衛生の観点から生産性の向上につながる指導に今後も邁進していきます。

〔お知らせ〕

家畜衛生管理センターの 死亡牛受付状況と業務の終了

(一社)岡山県畜産協会 家畜衛生部

家畜衛生管理センターは、岡山県が死亡牛BSE検査の採材施設として、久米郡美咲町（農林水産総合センター畜産研究所内）に整備し、死亡牛の受け入れ保管等、岡山県が実施するBSE検査以外の管理運営を当協会が受託しています。

平成28年度からの死亡牛の搬入状況は下表のとおりで、令和元年度から、検査対象が96か月令（8歳）以上及び48か月令（4歳）以上の起立不能牛等に変更されたため、受け付け頭数が大きく変化しました。変更後は、家畜保健衛生所や診療獣医師をはじめ関係する皆様の御努力によって、大きな混乱もなく順調に業務を遂行できました。引き続き、月齢や対象疾病の判断に留意するようお願いします。

なお、今年は高温日が例年にないほど続いたため、牛が体力を長期間にわたって消耗したと考えられ、暑熱対策が追い付かず、1月までの死亡牛頭数は前年同月比119%となっています。

令和5年度のこれまでの主な死亡原因は、心不全32%、肝炎20%、牛伝染性リンパ腫10%、第四胃変位5%、乳熱5%などでした。

〔搬入受付頭数〕R6.1.31現在

(単位：頭)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28	26	28	30	44	57	39	43	30	40	26	32	36	431
H29	33	39	27	53	64	39	36	50	41	45	28	40	495
H30	27	37	37	68	58	53	36	32	27	41	36	34	486
R元	10	9	5	19	18	17	14	8	16	14	7	17	154
R2	9	6	7	17	24	14	14	19	11	7	12	13	153
R3	5	16	5	14	10	9	15	8	12	10	14	15	133
R4	9	8	15	3	12	8	3	11	7	9	14	10	109
R5	8	7	4	9	14	12	7	9	17	14			101

●死亡牛受付日：正月（1月1日～3日）を除き毎日取り扱っています。

●電話受付 8：30～12：00 TEL0867-27-3101 FAX0867-27-3102

●搬入受付 10：00～15：00 担当：佐々木、宮本

注意：家畜衛生管理センターは、BSE関係法令の改正に伴い、令和6年3月31日(日)15時で受付を終了します。(次ページの岡山県畜産課からのお知らせを参照)

(農家向け)

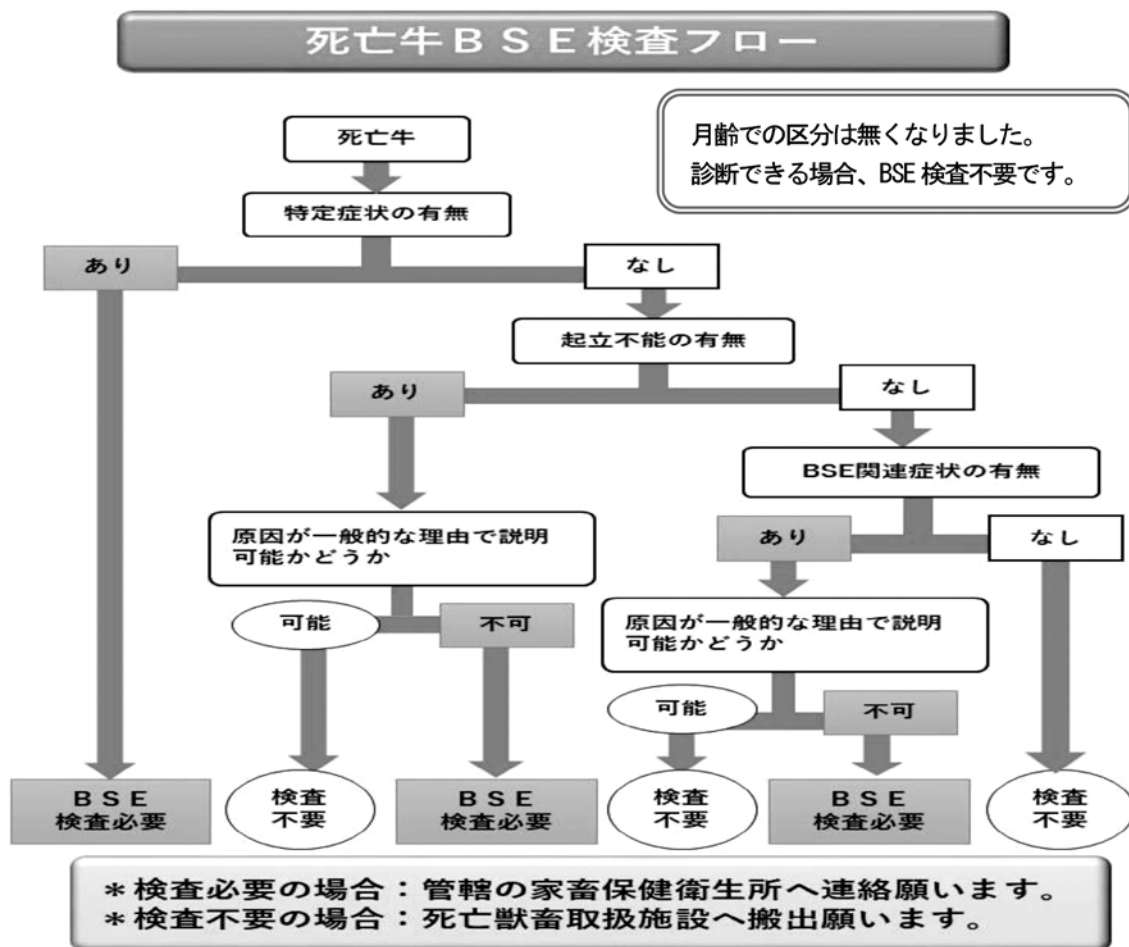
令和6年4月から 死亡牛BSE検査対象が変更になります！

岡山県農林水産部畜産課

令和6年4月1日以降、死亡牛BSE検査対象が月齢に関係なく、特定症状を呈する牛及びBSEを否定できない牛に変更になります。

BSE検査をする必要があるかどうかは、かかりつけの診療獣医師や管轄家畜保健衛生所へ相談願います。

検査対象外の死亡牛は、農場から死亡獣畜取扱施設へ搬入など、適切に対応願います。



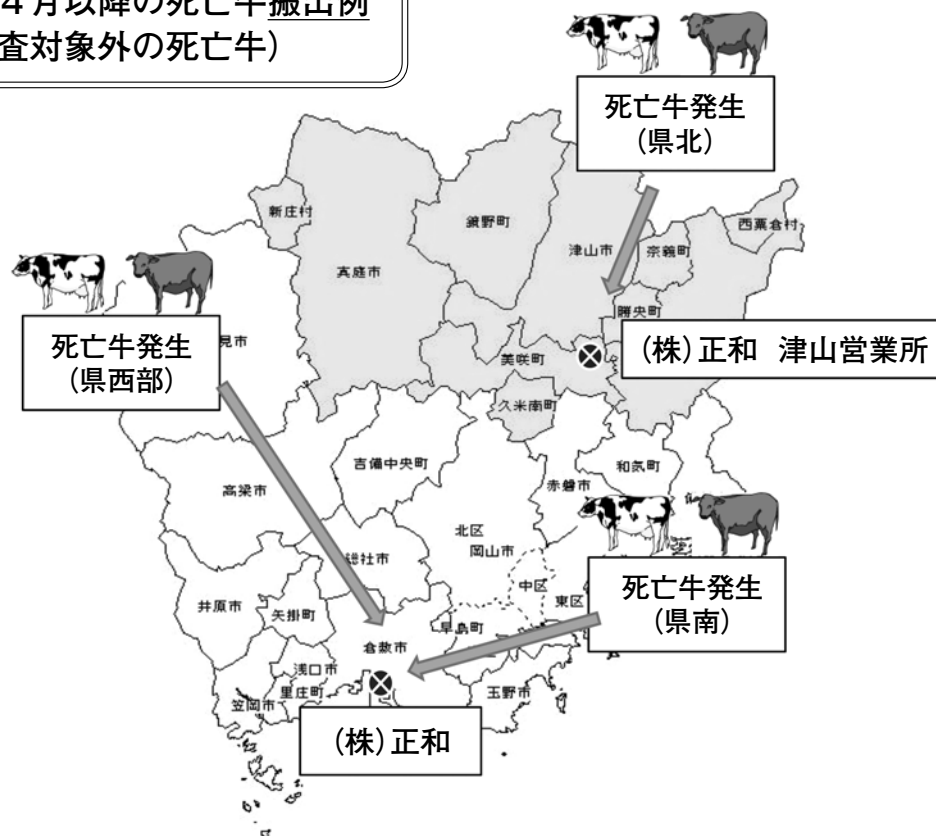
(参考) 特定症状とは

死亡前に次の症状を呈していた又は呈していた可能性が高い牛

- ①治療の効果が期待できない進行性の次のいずれかの行動変化があること
「興奮しやすい」「音、光、接触等に対する過敏な反応」
「群内序列の変化」「搾乳時の持続的な蹴り」
「頭を低くし、柵等に押しつける動作の繰り返し」
「扉、柵等の障害物におけるためらい」
- ②感染症の疑いがなく、かつ、原因が不明の進行性の神経症状があること

(農家向け)

令和6年4月以降の死亡牛搬出例
(検査対象外の死亡牛)



(株)正和の搬入時間・必要書類・処理代金について

- (1) (出来れば前日に) 必ず、事前に搬入時間を連絡下さい。
搬入時間 7:00～15:30
定休: 日曜日 (その他の休日: 12月31日～1月3日)
- (2) 必要書類 (添付書類)
診断書
マニフェスト ((株)正和にあります。正和で記入する際は印鑑を持参下さい。)
- (3) 処理代金 (税込) マニフェスト代含む

消費税率	7ヶ月齢未満	7～24ヶ月齢未満	24ヶ月齢以上
10%	9,460円	19,140円	28,820円

<住所・連絡先>

(株)正和

倉敷市南畝1丁目13番1号

TEL: 086-450-3807 FAX: 086-450-4008

(株)正和 津山事業所

久米郡美咲町周佐字岩ノ上1337番4 TEL: 0868-62-1232 FAX: 0868-62-1233

<問い合わせ先>

岡山家畜保健衛生所 086-724-3880
井笠家畜保健衛生所 0866-84-8221
高梁家畜保健衛生所 0866-22-2077
津山家畜保健衛生所 0868-29-0040

〔センムのヒトリゴト〕

刻まれた傷跡、白い友の仲間たちへ

(一社) 岡山県畜産協会 中塚 陽二郎

タツという真っ白な秋田犬がいた。タツは、品位と威厳を兼ね備えた雄犬で、品評会でも常に上位の成績であった。ある日、飼い主である母子が、タツにご飯を与えていた。タツはお腹が減っていたのか夢中で食べていて、器がひっくり返りそうになった。小さな子供は、こぼれないようにと器に手を添えようとした。そして悲劇が起こった。タツは子供の顔を噛んでしまったのだ。病院に運ばれた子供は軽症であったが、それ以降、犬小屋にはタツの姿はなかった。幼心に自分の軽率な行いを悔い、タツに申し訳ない気持ちで泣いた。今も私の左頬に傷跡が残っているが、大好きだったタツとの辛い別れの証である。

先般、動物愛護・保護活動のボランティアに取り組んでいる方と話をする機会があった。動物愛護センターに保護された犬猫や、飼い主が高齢化で飼育することが困難になった犬猫をボランティアの家庭で預かり世話をしているそうだ。譲渡会で新しい飼い主を探しているが、その頭数も年々増え続け、専門の保護施設が必要となり、ボランティア団体の活動として、自ら、その施設を設置するつもりだという。頭がさがる思いだ。

ボランティアによる犬猫の保護にも限界がある。ペット販売業者等にも、ある程度の負担や保護義務を課すことができないのだろうか。ペットが最後まで飼い主としあわせに暮らせる社会になってほしい。

令和5年度和牛シンポジウムを開催します!!

～みんなで考えよう! 基本にたちかえる和牛繁殖管理～

日 時: 令和6年3月21日(木) 受付開始時刻 11:30 開催時間 12:30 ～ 15:30

場 所: グリーンヒルズ津山リージョンセンター ペンタホール

内 容: 和牛繁殖管理についてのパネルディスカッション

【パネリスト】井原みか氏(津山市)・上田稔氏(新見市)・江草真一氏(高梁市)

・田中公浩氏(勝田郡)・長尾美貴夫氏(真庭市)【助言者】西川達也先生(NOSAI 岡山)

【コーディネーター】藤原裕士((一社)岡山県畜産協会)

※昼食には、消費拡大の一環として「津山和牛弁当」を準備しています。



メディパルグループ



動物の健康は 人の健康につながる

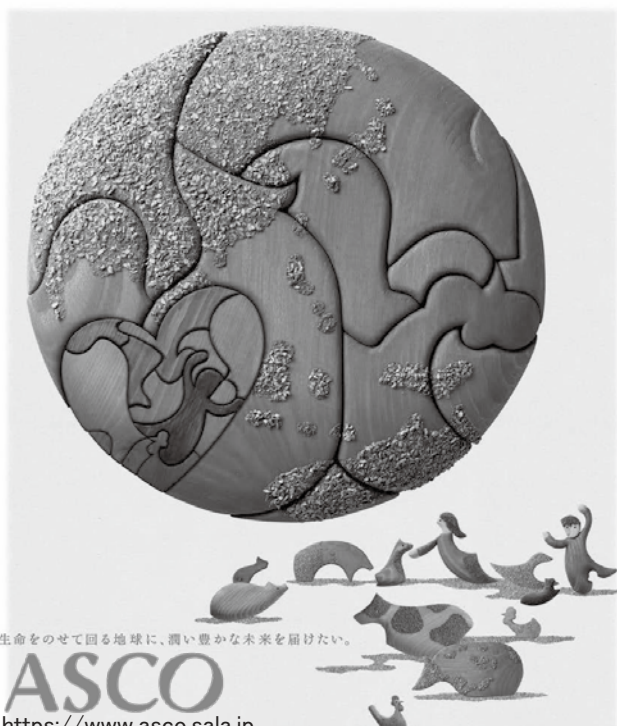
- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

ASCO

<https://www.asco.sala.jp>

本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都

高知競馬開催案内(2024)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

3月				4月(2月27日現在未定)			
開催日	備考			開催日	備考		
1 金				17 日	○ ナイター		
2 土				18 月			
3 日	○ ナイター			19 火	○ ナイター		
4 月				20 水	○ ナイター		
5 火	○ ナイター			21 木			
6 水	○ ナイター			22 金			
7 木				23 土			
8 金				24 日	○ ナイター		
9 土				25 月			
10 日	○ ナイター			26 火	○ ナイター		
11 月	○ ナイター			27 水	○ ナイター		
12 火	○ ナイター			28 木			
13 水				29 金			
14 木				30 土			
15 金				31 日	○ ナイター		
16 土				ナイター(14:45~20:50)			

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

畜産振興と公営競馬場において、競馬、畜産及び畜産物に対する認識を深めるため2月12日(月)に「岡山県吉備の温羅特別」の開催と、当日の競馬場来場者先着250名にジャージーヨーグルトを配布しました。競馬場は好天に恵まれ、3連休最終の祝日で、多くの家族連れで賑わっていました。レースはアードラー号(宮川実騎手)が終始先頭をとり、見事な逃げ切り勝ちをおさめました。



あとがき

コキア、和名をホウキギという。一昨年3株の苗を購入し、庭で育てた。夏はライムグリーン色で葉が風に揺られる様に清涼感が漂った。秋になると息をのむほどの紅色へと変わった。その後、ホウキギの名の通り木質に変化し、ホウキを作った。次の春、全く手をかけていないのに庭一面にこぼれ種でコキアが群生。その年はコキア公園といってもいいくらい見事な様相だった。そして植物の強さを実感した。何度踏まれても、しっかり根を下ろし、生き延びようとする。置かれた場所で今花を咲かせることが出来なければ、その日が来るまで根をしっかりと張るという言葉聞いたことがある。厳しい情勢の中、今は根を張るときなのかもしれない。(H.F)

岡山畜産便り 2月号(冬季号)

第75巻 第2号(通巻709号)

令和6年2月27日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる! 畜産!

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信中の内容: 総集編 若き情熱! 全国和牛能力共進会

特別区/畜産DX特集 総集編養鶏・

養豚の今に迫る/コントラクターと連携

大分県高田牧場/他



◀スマートフォンからはこちら

▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



お問合せ: (公社) 中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

岸化学グループ



株式会社 正和

代表取締役 岸 小三郎

岡山本社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷今山10137番58

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

たつの事業所 〒679-4116 兵庫県たつの市神岡町沢田字平岩ノ下1363番地

大村事業所 〒856-0009 長崎県大村市松原本町565番地13

TEL 086 (450) 3807

FAX 086 (450) 4008

TEL 0829 (40) 5177

FAX 0829 (40) 5178

TEL 0847 (54) 2007

FAX 0847 (54) 2008

TEL 0857 (50) 1736

FAX 0857 (50) 1738

TEL 0868 (62) 1232

FAX 0868 (62) 1233

TEL 0791 (64) 0080

FAX 0791 (64) 0081

TEL 0957 (46) 3800

FAX 0957 (46) 3824

取扱品目

死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物